

## 鬼ノ岩屋・実相寺古墳群(別府市)

[鬼ノ岩屋古墳群の鬼ノ岩屋1号墳～実相寺古墳群の太郎塚・次郎塚と見て行こう！](#)

まずは、鬼ノ岩屋古墳群の鬼ノ岩屋1号墳

# 国指定史跡 鬼ノ岩屋・実相寺古墳群

おに の いわ や じっ そう じ こ ふん ぐん



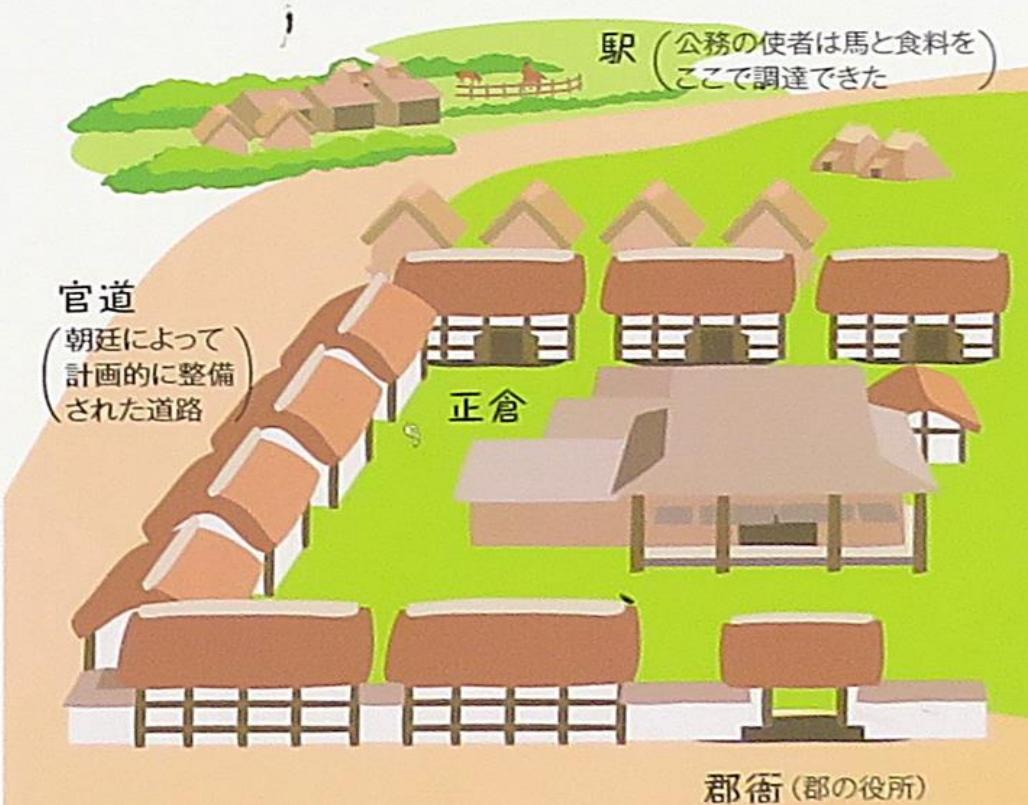
## 鬼ノ岩屋・実相寺古墳群とは

鬼ノ岩屋・実相寺古墳群は、春木川を挟んで約1km離れた2つの古墳群です。この2つの古墳群は6世紀後半から7世紀初頭のおよそ50年間という短い間に、当時としては県内最大規模の古墳を立て続けに造りました。鬼ノ岩屋古墳群は筑後や肥後の影響が認められ、実相寺古墳群は畿内政権とのつながりが指摘されています。

	鬼ノ岩屋古墳群	実相寺古墳群	できごと
550年	鬼ノ岩屋2号	太郎塚 次郎塚	
600年	鬼ノ岩屋1号	鷹塚 天神畠1号	593 聖徳太子が摂政に 607 遣隋使を派遣
650年			645 大化の改新
700年	速見郡衙		

## ぐんが うまや 郡衙と駅の想像図

鬼ノ岩屋・実相寺古墳群が造られなくなったのち、別府には速見郡衙が設置され、郡衙を中心に入れとモノの交流が盛んに行われました。速見郡衙は2つの古墳群の中間にある八幡石垣神社付近にあったと推定されています。



ここは鬼ノ岩屋1号墳/6世紀末～7世紀初頭築造の円墳/前方に横穴式石室が開口しているのが見える

 [video](#)



右手から見たところ



同じく、左手から見たところ/説明板がある



## 装飾古墳のようだ/主体部は石屋形

国指定史跡 鬼ノ岩屋・実相寺古墳群（昭和32年11月28日指定）

# 鬼ノ岩屋1号墳

### 鬼ノ岩屋1号墳の特徴

鬼ノ岩屋1号墳は、直径約31mの円墳です。造られたのは6世紀末～7世紀初頭で、古墳の内部には、前室と玄室の複室構造の横穴式石室があり、加工した石を積み上げて石室が造られています。玄室には石屋形と呼ばれる肥後や筑後地方の特徴を持つ石のひつぎがあります。



### 1号墳の装飾壁画の特徴

鬼ノ岩屋1号墳の装飾は、前室の側壁と袖石に描かれています。側壁には黄色の顔料で連続する山形文が描かれています。玄門の袖石には、黒色の顔料で三角形文とそれを囲むS字文様が描かれ、また黄色の顔料で鞍（矢を入れる道具）が描かれるなど被葬者（古墳の主）の人物像がしのばれます。



三角文とそれを囲むS字文



鬼ノ岩屋古墳群は、2基の円墳からなる古墳群です。2号墳が6世紀後半、1号墳は少し遅れて6世紀末～7世紀初頭頃に造されました。石室の構造や装飾壁画の存在などから肥後や筑後地方とのつながりが強い古墳群であると考えられます。昭和32年11月28日に国史跡に指定されました。



1号墳の入口



1号墳の横穴式石室内部



1号墳の装飾壁画



1号墳の玄室

別府市教育委員会

横穴式石室への鉄門/施錠されている



横穴式石室の入口も閉塞されている



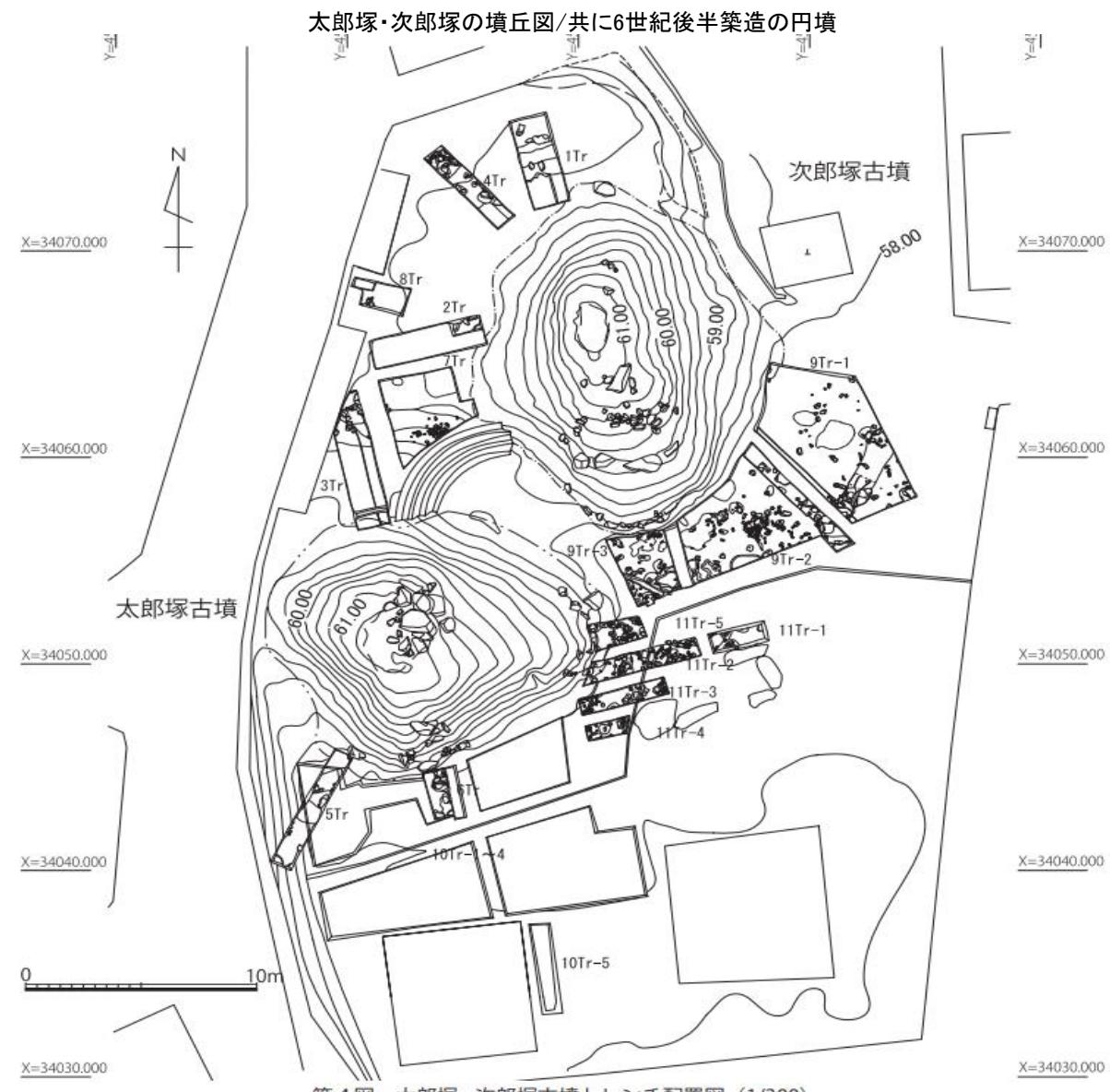
左手から墳丘を見たところ/かすかに墳丘ラインが見て取れる

 [video](#)



次は、実相寺古墳群の太郎塚・次郎塚





第4図 太郎塚・次郎塚古墳トレンチ配置図（1/300）

### 別府市の「太郎塚古墳・次郎塚古墳の調査」より

正面が次郎塚/左奥は太郎塚

 [video](#)



太郎塚(左手)から次郎塚(右奥)方向を見たところ



左手の太郎塚



左手が太郎塚、右手は次郎塚



右手の次郎塚



そこで、左手に太郎塚を見たところ

 video



反対側で、次郎塚から太郎塚方向を見たところ



こちらは太郎塚から次郎塚方向を見たところ

 video



次郎塚を見たところ/墳頂に石室材が見える

 [video](#)



アップで見たところ



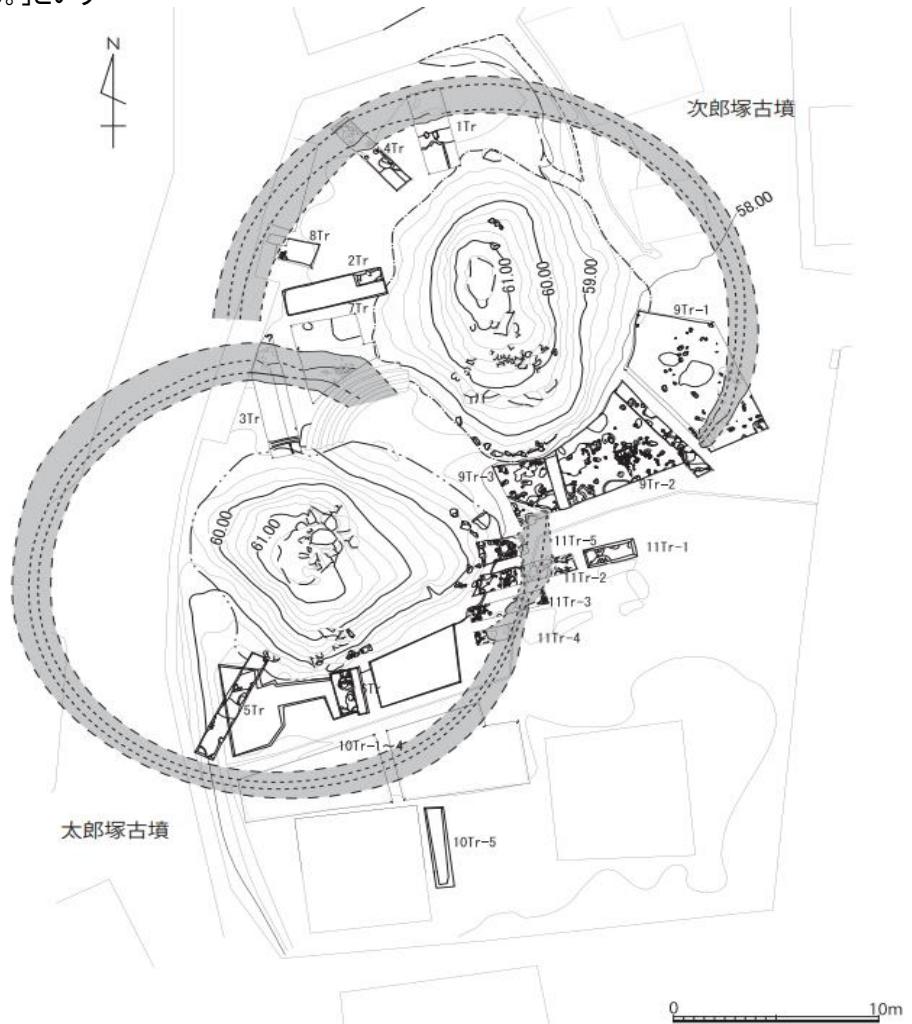
そこで、右手に太郎塚を見たところ



右手に回り込んで、太郎塚を見たところ



別府市の「太郎塚古墳・次郎塚古墳の調査」によると、「次郎塚古墳は、墳丘が南北方向に橢円形となり、墳丘南側の等高線59.500 mの箇所に羨道部の天井石と考えられる扁平の石材がみられることから、次郎塚古墳の主体部入口は、墳丘南側の9トレンチ3区側で間違いないと思われる。この9トレンチ3区で検出した太郎塚古墳の周溝は、次郎塚古墳の主体部への入口があるため途切れていますと判断できる。つまり、設計段階で太郎塚古墳の墳丘と周溝が先に設計され、次に次郎塚古墳設計されたものと考えられる。しかし、墳丘の築造時期については、出土遺物よりTK43型式並行の同時期に築造されたものと考えられる。」という



第21b図 太郎塚古墳・次郎塚古墳墳丘復元図 (1/300)

別府市の「太郎塚古墳・次郎塚古墳の調査」より

さて、フェンスの中に石室材がある/説明板もある



# 天神畠古墳

この石室は、ここから100m程東にある畠地で発掘されたものを移築・復元したものです。

古墳の主体部は巨石を組み合わせた横穴式石室で、方形の床面を有する玄室と前室もしくは羨道から構成され、墳丘や石室の天井などは、既に削りとられ消失していました。

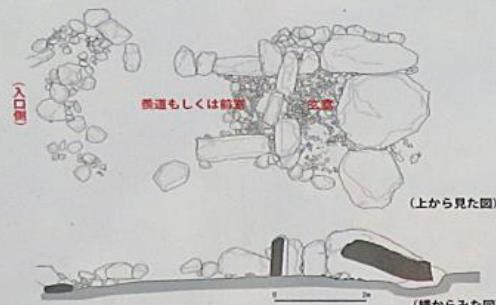
奥壁や側壁には、朱を塗った跡がありますが、装飾等は認められず、石室や周辺からは須恵器の甕や高环が出土したほか、馬具と思われる鉄器も出土しました。

この天神畠古墳は、古墳時代の終りの頃にあたる6世紀末から7世紀初頭頃に築造されたもので、鷹塚古墳・太郎塚古墳・次郎塚古墳と同じ古墳群に含まれるものと考えられます。

実相寺古墳群の天神畠古墳の横穴式石室を移築・復元したものらしい



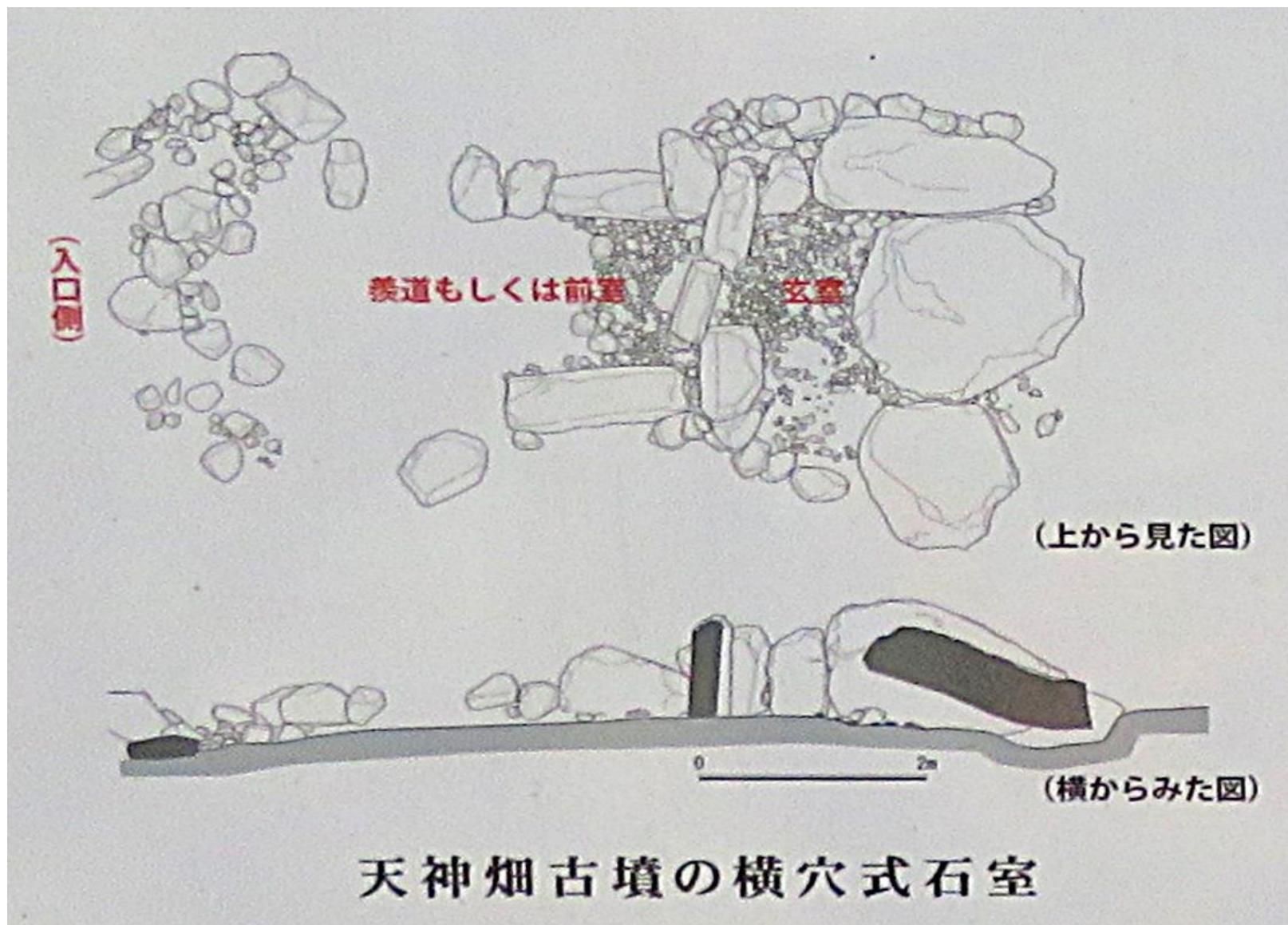
別府の古墳群



天神畠古墳の横穴式石室



発掘調査当時の写真



天神畠古墳の横穴式石室

 video



また、付近には石室材と思われる石材が無造作に置かれていた



右手から見たところ



# 国指定史跡 鬼ノ岩屋・実相寺古墳群

平成二十九年一月九日指定

## 実相寺古墳群

実相寺古墳群は、6世紀後半から7世紀初頭にかけて造られた古墳群で、鷹塚古墳・太郎塚古墳・次郎塚古墳・天神畠1号墳・天神畠2号墳の5基の古墳から構成されています。

鷹塚古墳は一边が25m程の方墳で、主体部である横穴式石室は、これまで県内最大とされていた鬼ノ岩屋2号墳を凌ぐ規模であることが判明しました。

太郎塚古墳・次郎塚古墳は近接して存在する古墳で、「別府太郎次郎墓」として江戸時代から知られる存在でした。ともに直径が23m程の円墳と考えられています。

実相寺古墳群や鬼ノ岩屋古墳群が造られた別府の地は、古墳時代の終りに、県内最大規模の巨石墳がたて続けに造られるなど、大分県の古墳時代を考える上で重要な地域であるとされています。



実相寺古墳群



鷹塚古墳全景



太郎塚古墳(左)・次郎塚古墳(右)

